

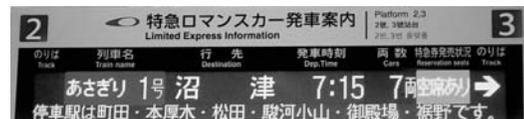
# 音の散歩路

## ～松韻と潮騒そして魚市場の掛け声と童謡と～



新宿から沼津に乗り換えなしで行ける路線をご存知でしょうか。小田急線新宿駅から出発する特急あさぎり号である（写真－1）。鉄道友の会のブルーリボン賞を受賞した広い窓のロマンスカーで、神奈川県の本厚木駅の先で分岐してJR御殿場線に乗り入れて沼津に向かう約2時間の旅である。御殿場線（国府津－沼津）はその昔東海道本線であったが、1934年の丹那トンネル開通とともにローカル線になってしまった。そして複線の片側まで取り去られてすべて単線である（写真－2）。でも鉄道唱歌はこれより以前からあったため御殿場線経由の歌詞となっているし、御殿場線にまつわる童謡には

「汽車ポッポ」もある。この歌は旧陸軍の演習場があった関係で御殿場線を舞台にしているという。もともとは戦時童謡「兵隊さんの汽車」といって出征兵士を歌ったものであったが、戦後歌詞を改めて広く愛唱されている。単線路線には似つかわしくない貴婦人の如きロマンスカーはこれまた似つかわしくないフルスピードで酒匂川をさかのぼる。かつては東海道本線の一



びゅうおパンフレットのアクセスマップより転載



写真－1



写真-2



写真-3

番の難所でピークの御殿場まで補助機関車を増設して山越えしたという。でもそんな様子は全く感じさせないスピード感でグングンと、♪まさかり担いで金太郎 熊にまたがり～♪と足柄駅を通過し、さえぎるものとなない富士山を間近に富士岡駅を通過し、山麓斜面を滑り降りて沼津駅に滑り込む。

沼津駅南口からは、市民バス・ビーバス北循環にゆられること7、8分の千本入口で下りる。千本松原の入口である。千本松原は奥駿河湾の海岸線に沿って沼津港の脇に広がる松林であり千本浜公園として整備されている。若山牧水が晩年、晩年といっても43歳で早世したが、この付近が気に入り居を構えて朝夕散歩したという。「幾山河こえさりゆかば…」の歌碑や記念館も近所にある。散策していると沼津にまつわる童謡の歌碑に遭遇する。子守唄「この子のかわいさ」である(写真-3、表紙)。元禄時代



写真-4

に流行した「江戸の子守唄」が広まって各地で歌詞が変化したとのことだが、とりわけこの曲は沼津地方の子守唄として名高く「何といふ細やかな愛に満ちたうたか…」と北原白秋もほめている。寝させ唄、遊ばせ唄、なだめ唄、あやし唄など子守唄にもいろいろあるが「この子のかわいさ」は寝させ唄である。下記のサイトで聴くことができる。

<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kids/shakaika/kyotu/utaf.htm>



写真-5



写真-6



写真-7

周囲を見回せばすべての松は海岸に背を向ける様に傾斜し（写真-4）、ザーと海風が松葉の隙間を騒いで通り過ぎてゆく。やがて深緑界の先に明るい堤防が現れ、勇んで駆け登ると視界は急激に全開、青白く光を反射する駿河湾の大海原が伊豆半島を従えてドーンと飛び込んでくる（写真-5）。堤防に起立して手かざして水平線に目をやれば、吹き上げる風が耳たぶを切る音と彼方で静かにひびく波音が心地よい。

さてさて、一時の夢見心地から覚めて堤防の上を沼津港に向かう。若山牧水記念館はこの途中にある（写真-6）。沼津港は外港と内港の二段構えであるが20分程度歩けばそのくびれに位置する港口公園に到着する。ここには本居長世の碑がある。「七つの子」「赤い靴」「青い目の人形」「十五夜お月さん」の作曲者であり、

沼津を愛して毎年夏にこの地を訪れて海辺の生活を楽しんだという。国文学者である本居宣長の6代目の子孫にあたる。前出の「汽車ポッポ」も長世の曲である。東京音楽学校を山田耕筰と同年の明治41年に卒業した長世は、教え子である藤山一郎によると戦前の音楽家ではピアノの腕は長世と弘田龍太郎というくらいうまかったそうだ。

さて、このくびれにはもう一つ、水門「びゅうお（view+魚“うお”）」がドッシとそびえている（写真-7）。平成16年に完成した。内港には魚市場や土肥などに向かう船乗場や市街地が広がるが、そこに住まう約9千人を津波から守っている。幅40メートル、高さ9.3メートル、重さ406トンの水門は規模としては日本最大級であり、震度6弱の地震を感知すると自動的に



写真-8



写真-9

落下する。塔の上は地上約30メートルの展望施設になっていて360度の眺望が開けている（写真-8）。鳥になった気分で大海原を見て深呼吸すればお腹が空いてくる時刻となり、エレベータで下りればうまい具合にすぐに魚市場である。

沼津港は静岡県の主要漁港の一つであり、引き上げられた魚はすぐに競りにかけられる。サバ、アジ、イワシ、カツオ、マグロが9割以上を占め、年間水揚げ量は3万数千トンという。平成19年に開業した沼津魚市場INO（イーノ）は2階に観光客用見学通路がある（写真-9）。早朝5時から通ることができるが、長くのびた

競り会場から威勢のよい商いの声が立ちのぼってくる様である。通路には魚やカニなどのパネルがかけられ「おひさまがあがってから来ても何もナイヨ!」「朝寝坊はこれでも見てナッ」という感じである。沼津といえばアジの干物が有名であるが、漬ける塩水は大切に管理して繰り返し使いそれが旨さの秘訣という。魚市場のまわりには観光客のために小売店や数多くの海鮮食堂がある。道沿いには開き魚が干され、そこから「アラヨッ」と取り上げては店先に並べ、製造直売とばかりに行きかう人々の目を楽しませてくれる（写真-10）。

商店街を抜けると沼津港を包むように伊豆天



写真-10



写真-11

写真-12



写真-13

城山系を源とした狩野川が流れている（写真-11）。鮎の宝庫で友釣り発祥地としても有名な川である。土日ならば渡し船で対岸に渡れるが今回は港大橋を渡る。電柱の“海拔2m”の文字になぜかドキッとしながら（写真-12）、少し足を延ばすと沼津御用邸記念公園がある。昭和44年に廃止されて記念公園となった。平成になって整備・改修工事が施されて東西の附属邸

が公開されている。特に昭和天皇の御用邸であった西附属邸は、家具・調度も復元・修復され、食堂、謁見所、御座所、台所など当時の皇室の薫りを体感できる（写真-13）。

新宿を起点として丸一日、海風とともに松韻と潮騒を楽しみ海の幸も味わえる耳にも胃袋にも御馳走となる至福の散歩路である。

（財団 江沢記）